

原著論文

救命救急センターの新卒看護師が感じる困難と乗り越えに関する研究

北島里紗、大木友美

昭和大学保健医療学部看護学科

要旨

本研究ではERの新卒看護師の困難と乗り越えの様相を明らかにすることを目的とした。新卒看護師としてERに就職した現在2年目の看護師を対象として面接調査を行った。486の[1次コード]、107の<2次コード>、41の《サブカテゴリー》、14の【カテゴリー】、3の『局面』が抽出された。新人看護師は『ER勤務への期待と不安』があり、『1年目で感じる困難の要因』は【職場環境に慣れる困難】【技術や知識が未熟】【看護基礎教育課程での学びの違い】【看護師を辞めたいという思い】【理想と現実のギャップ】、『困難の乗り越え方』は【困難の乗り越え方を身につける】【業務遂行への努力】【周囲のサポート】【自分の理想の新人教育像を抱く】【自己の考え・行動の前向きな変化】【自己の自信とやがいの表れ】などで構成された。新卒看護師は時期によって異なる様々な困難を抱えており、それを乗り越えるためには新卒看護師の努力だけでなく、周囲のサポートが必要であり、困難を乗り越えるためには、ER希望動機は特別な存在であった。新卒看護師は困難に直面しても、それを受け止め、その都度対応して行くことで困難の乗り越え方を身につけて行った。

キーワード：新卒看護師、救命救急センター、困難、乗り越え

緒言

救命救急センター（以下、ER）では忙しさや責任感の重さ、救急看護の特殊性などから看護師はストレスに曝されている<sup>1)</sup>。しかし、ERの緊迫した環境や前述した理由から新人看護師は他の病棟に比べて2年目に適応するまでに数多くの困難に直面するなど職場に適応していくことが難しいと推測される。しかし、新人看護師は新しい環境に適応していかなければならない。

先行研究では新卒看護師が困難を乗り越えるためには周りのサポートが重要である<sup>2)</sup>ことや有りのままの自分を受容し行動変容する必要がある<sup>1)</sup>とされているが、新卒看護師自身がその困難を乗

り越えるためにどのような認識や行動をとる必要があるかという視点での研究は十分ではない。本研究ではERの新卒看護師の困難と乗り越えの様相を明らかにすることを目的とする。

用語の定義

本研究における用語の定義を以下のようにする。

困難：職場に適応していく上で苦しみ悩むこと  
乗り越え：困難を切り抜けて職場に適応していくこと

プリセプター：新人看護師を一定期間1対1で教育指導するプリセプターシップにおいて新人看護師を指導する専任の先輩看護師

## 研究方法

### 1. 調査対象者・期間

新卒看護師として首都圏のA病院救命救急センターに就職した現在2年目の看護師4名を対象とした。調査期間は平成24年8月~10月であった。

### 2. 調査方法

先行研究をもとにERの新卒看護師の困難と乗り越えに関するインタビューガイドを作成し、それに基づき半構成的面接調査を行った。入職後から現在までを振り返り、困難だったこと、困難を乗り越えられた要因について語ってもらった。面接内容は対象者の承諾を得て録音機に録音した。

### 3. 分析方法

面接で得られたデータを逐語記録に起こし、それをもとに記録単位で分析し、分類することでERの新卒看護師の困難と乗り越えを客観的に明らかにすることを目的に内容分析の技法を参考に個別分析、全体分析を行った。対象者の言葉を忠実に解釈し、1次コード、2次コード、サブカテゴリー、カテゴリー、局面を抽出した。

### 4. 倫理的な配慮

研究対象者には、研究目的・意義及びプライバシーの保護の保証、研究参加は自由意志であること、データは研究以外には使用しないことを口頭と書面で説明し、同意を得た。インタビューはプライバシー保護が可能な個室で行った。

### 5. 信頼性・妥当性

データの解釈において質的研究者と複数回内容の検討を行った。

## 結果

### 1. 対象者背景

対象者は、新卒看護師として救命救急センターに就職した2年目の看護師4名(女性1名、男性3名)で、看護基礎教育課程は全員看護系4年制大学の卒業であった。

### 2. 1年目の業務状況 (図1)

入職直後の4月初めはすぐに業務を行うのではなく、1日中座学中心の研修が設けられていた。週に数回、所属病棟での業務となっていたが、プリセプターや他の先輩看護師の行う看護援助の見学が中心であった。5月になると病棟での業務が中心となり、徐々にプリセプターや他の先輩看護師の支援の下で患者を受け持つようになった。対象者の中には、この時期から夜勤を開始した者もいた。7月になると1日の看護計画を自分で立案して実施をするようになり、8月には新卒看護師が主体的に患者を受け持つようになった。また、この頃にはすべての対象者が夜勤業務を行い、9月には夜勤帯での看護計画を自分で立案するようになり、10月には夜勤帯でも1人の看護師として数えられるようになった。12月には徐々に立ち上げていき、2月にはプリセプターや他の先輩看護師からの支援がなくなり、完全に1人で業務を行うようになっていく過程を辿った。

### 3. 1年目の研修・指導状況 (図2)

1年目の研修・指導状況は、4月~5月頃は業務のほとんどが研修の時間に当てられ、勤務の準備が整うように教育されていた。病棟勤務が始まると、プリセプターシップによる指導が始まり、4月から半年間それぞれ新卒看護師1人に対して1人のプリセプターがついた。ただ、この半年間、プリセプターが常時指導するのではなく、6月頃には他の先輩看護師も指導に加わった。8月頃には指導がフォローに変わりプリセプターから自立していった。また入職当初は頻回に研修が行われるが、9月頃からは月1~2回の研修となっていた。

### 4. 困難と乗り越えに関する結果

面接調査の結果、対象者から得られたデータを困難と乗り越えに着目して分析した結果、486の1次コードから107の2次コード、42のサブカテゴリー、14のカテゴリー、3の局面が抽出された。以下、局面は『 』、カテゴリーは【 】、サブカテゴリーは《 》、2次コード< >、1次コード[ ]とする。

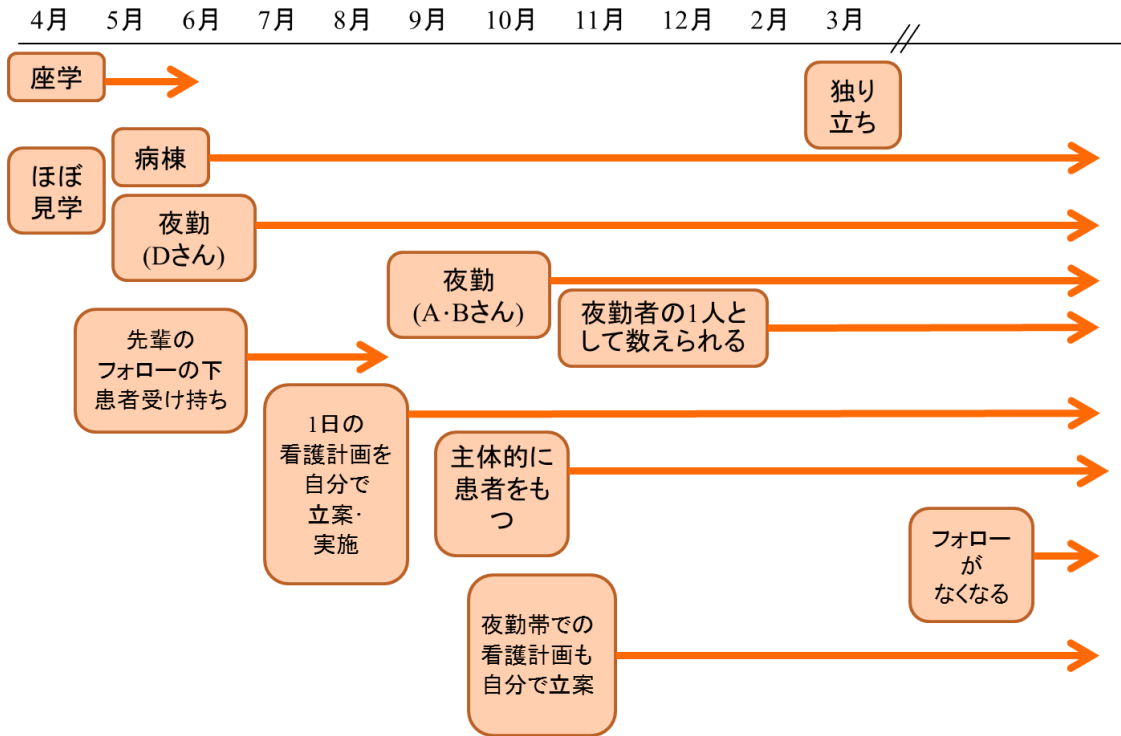


図1 看護師1年目の業務状況

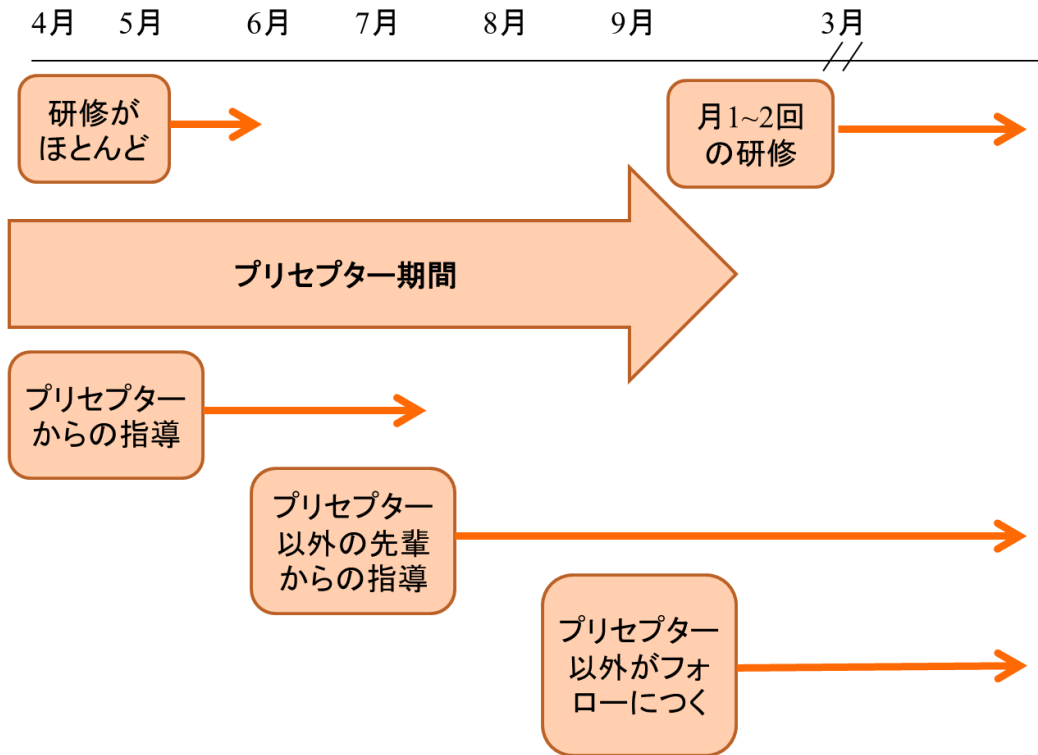


図2 看護師1年目の研修・指導状況

1) 『ER 勤務への期待と不安』(表1)

ER への配属が決まった就職当初は「希望通りの配属による意識の高まり」「ER で患者の命を救いたいという気持ち」など【ER 勤務への期待】と「ER での業務遂行への不安」など【ER 勤務への不安】という2つの思いを抱いていた。

2) 『1年目で感じる困難の要因』(表1)

『1年目で感じる困難の要因』は、「職務上の困難を実感する」「職場環境に慣れることの難しさ」「先輩に質問しにくい環境」「先輩との人間関係」「先輩からの指導が辛く悩む」などの【職場環境に慣れる困難】、「家族への対応が難しい」

「救急対応に対する恐怖や不安」「一つ一つの看護技術が難しい」「何も分からず余裕がない」「力量以上のことを求められる」などの【技術や知識が未熟】、「看護基礎教育による習得内容の違いがある」「臨床に役立つ技術や体験を看護基礎教育で得られにくい」などの【看護基礎教育過程での学びの違い】、【看護師を辞めたい思い】、「社会人は行動に責任感が生じる」「現実を思い知る」などの【理想と現実のギャップ】があった。しかし人間関係等に対しては「看護師を辞めたいという思いはない」「先輩との人間関係は良好」などの【困難と感しない】者も存在していた。

表1 ER 勤務への期待と不安、1年目で感じる困難の要因

局面	カテゴリー	サブカテゴリー
ER 勤務への期待と不安	ER 勤務への期待	希望通りの配属による意識の高まり
		ER で患者の命を救いたいという気持ち
	ER 勤務への不安	ER での業務遂行への不安
1年目で感じる困難の要因	職場環境に慣れる困難	職務上の困難を実感する
		職場環境に慣れることの難しさ
		先輩に質問しにくい環境
		先輩との人間関係の難しさ
		先輩からの指導が辛く悩む
	技術や知識が未熟	家族への対応が難しい
		救急対応に対する恐怖や不安
		一つ一つの看護技術が難しい
		何もわからず、余裕がない
		力量以上のことを求められる
	看護基礎教育過程での学びの違い	看護基礎教育による困難の違いはない
		看護基礎教育による習得内容の違いがある
		臨床に役立つ技術や体験を看護基礎教育で得られにくい
	看護師を辞めたいという思い	看護師を辞めたいという思い
	理想と現実のギャップ	社会人は行動に責任感が生じる
現実を思い知る		
困難と感しない	看護師を辞めたいという思いはない	
	先輩との人間関係は良好	

3) 『困難の乗り越え方』(表2)

『困難の乗り越え方』は、《仕事とプライベートを分ける》《遊びや気分転換を図る》《愚痴を言う》《深く考えない》といった【困難の乗り越え方を身につける】ことを行い、《知識や技術習得に向けた努力》《忙しい時の対処方法を身につける》《同じ失敗を繰り返さない》などの【業務遂行への努力】をしていた。《同期の精神的な支え》《家族からの支え》《先輩の精神的な支え》《他人に協力を求める》《先輩の指導による知識や技術の習得》などの同期看護師や先輩看護師、

家族といった【周囲のサポート】があり、《前向きな気持ちをもつ》《初心を振り返る》《自己の内面や精神面の変化》《今後の目標の明確化》といった【自己の考え・行動の前向きな変化】などがあつた。困難を乗り越える過程では《成功体験を忘れない》《やりがいを実感する》《自分の成長や自信を実感する》などの【自己の自信とやりがいの表れ】がみられ、自分の体験を通して【自分の理想の新人教育像を抱く】ようになっていた。

表2 困難の乗り越え方

局面	カテゴリー	サブカテゴリー
困難の乗り越え方	困難の乗り越え方を身につける	仕事とプライベートを分ける 遊びや気分転換を図る 深く考えない 愚痴を言う
	業務遂行への努力	知識や技術取得に向けた努力 忙しい時の対処方法を身につける 同じ失敗を繰り返さない
	周囲のサポート	同期の精神的な支え 家族からの支え 先輩の精神的な支え 他人に協力を求める 先輩の指導による知識や技術の習得
	自分の理想の新人教育像を抱く	自分の体験を通して思う新人教育の在り方
	自己の考え・行動の前向きな変化	前向きな気持ちを持つ 初心を振り返る 自己の内面や精神面の変化 今後の目標の明確化
	自己の自信とやりがいの表れ	成功体験を忘れない やりがいを実感する 自分の成長や自信を実感する

## 考 察

### 1. ERの新卒看護師が感じる困難の内容 (図3)

ERの新卒看護師が感じる困難の内容として【職場環境に慣れる困難】が入職当初よりあった。4、5月は【理想と現実のギャップ】【看護基礎教育過程での学びの違い】【技術や知識が未熟】《職場環境に慣れることの難しさ》といった困難が生じ、これらの困難が治まった後、プリセプター以外の先輩看護師からの指導が徐々に始まる6月頃から先輩看護師に関する困難が出現している。夜勤の開始やプリセプター以外の先輩看護師からの指導といったような新たな指導体制が開始され、入職当初と比べて環境が変化する<sup>2)</sup>ために困難の内容も変化したと考えられる。このことからそれぞれの時期の困難状況・内容に合った支援が必要であると考えられる。また、入職時には【ER勤務への期待】があったにもかかわらず、【ER勤務への不安】という相反する気持ちを抱いており、これが入職当初の困難に影響を及ぼしている可能性もあると考えられる。そのため、職場側も新卒看護師に対する意図的な関わりを念頭に置き、オリエンテーション等で入職時の不安を軽減していく必要があると考える。入職当初は【看護基礎教育過程での学びの違い】を感じている者もいたが、一方で《看護基礎教育による困難の違いはない》と感じる者もいた。このことから、【看護基礎教育過程での学びの違い】が困難に影響することは受け取る側の認識に左右されると考える。ERでは看護基礎教育で体験しない技術が多く、高度かつ専門的な知識が必要であり、日々の業務も多忙を極める。その状況の中で高い志や使命感を持ちながら入職しても厳しい環境の中で自分の無力さを実感し、リアリティショックも高いと推測される<sup>3)</sup>ため【理想と現実のギャップ】は困難に陥る要素が大きいと考えられる。また人間関係等に対して同期看護師や先輩看護師、家族の支援によって【困難と感じない】部分もあると答えた者もいたが、多くは困難を感じており、新卒看護師は様々な困難を抱えていると言える。このことから、周囲の人は新

卒看護師がどのような困難を抱えているのかを見極めて支援方法を選択していく必要があると考えられる。これらの困難が蓄積することによって【看護師を辞めたい思い】が生じ、離職への思いが生じるきっかけになることが明らかになった。また【看護師を辞めたい思い】は、新人看護師が自立して患者を受け持ったり夜勤で1人前として扱われるようになる10月頃、先輩看護師のフォローがなくなる2月頃にみられていることから、業務拡大による新卒看護師への負担増大が離職への思いへと影響していると考えられる。

### 2. 困難の乗り越え方・乗り越えに影響した要因 (図4)

新卒看護師は困難に対して【困難の乗り越え方を身につける】【業務遂行への努力】といった自己の行動を変えることによって困難を乗り越えようとしていた。【困難の乗り越え方を身につける】には《仕事とプライベートを分ける》《遊びや気分転換を図る》《愚痴を言う》《深く考えない》ことが含まれ、仕事や困難から距離を置く時間を作るようにしていた。このように気持ちを切り替え、新たな気持ちで仕事に取り組むことが、困難の乗り越えにおいて重要であると考えられる。また困難を乗り越えるためには新卒看護師自身が行動変容するだけでなく、【周囲のサポート】を得ることも重要である。同期看護師や先輩看護師からのサポートを受けたり、先輩看護師からの支えや指導、同期の存在が困難を乗り越える力を後押ししていると考えられる。この【周囲のサポート】の中でも特に同期看護師は自分と同じ状況にあり、自分の心境も理解して、ありのままを受け入れてくれるため、貴重なサポートであると新卒看護師は認識しており<sup>25)6)</sup>、困難を乗り越えるために同期看護師は特別な存在であると言える。また新卒看護師は《知識や技術が未熟》という困難を感じており、先輩看護師の指導により知識や技術面が成長し、そこでの学びから困難を乗り越えていた。このように困難を乗り越えるためには先輩看護師からの教育的な関わりが重要である<sup>47)</sup>と考えられる。ま

た、＜自分の年齢に近い先輩は自分の気持ちもわかってくれるため支えになった＞＜プリセプター  
の声かけで自分も前向きに頑張ろうと気持ちをポ  
ジティブに変えていけた＞とあるように、先輩看  
護師の中でも身近に感じることでできるプリセプ  
ターや新卒看護師と年齢が近い2~3年目の看護師  
が特に支えとなっているということがわかった。  
また【周囲のサポート】により新卒看護師は＜自  
分の成長や自信を実感する＞ことができ、それが  
【自己の自信とやりがいの表れ】としてみられ、  
これが職場適応に影響している<sup>8)</sup>と考えられる。  
これらの結果、【自己の考え・行動の前向きな変化】

が起きたことで、困難に対して受容と適用力が培  
われ、さらに困難の乗り越えに繋がったと考えら  
れる。また、＜初心を振り返る＞ことや＜救命へ  
の強い思いを再認識する＞ことで【自己の考え・  
行動の前向きな変化】が起こっていることから、  
入職時に抱えている＜ERで患者の命を救いたい  
という気持ち＞といった【ER勤務への期待】も【自  
己の考え・行動の前向きな変化】に影響すると予  
測される。困難を乗り越える過程では、自身の体  
験から新卒看護師が[新人が仕事をしやすいよう  
な環境を作る]といった自分の理想の新人教育像  
を抱くようになることが考えられた。

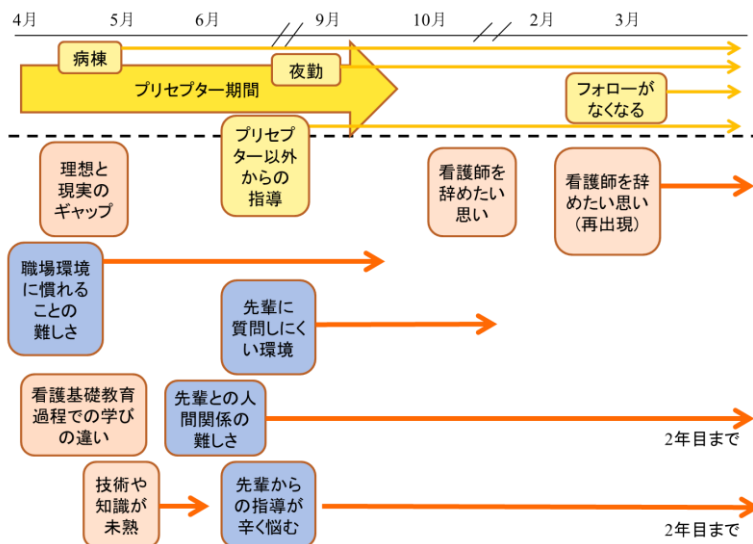


図3 時系列でみたERの新卒看護師が感じる困難

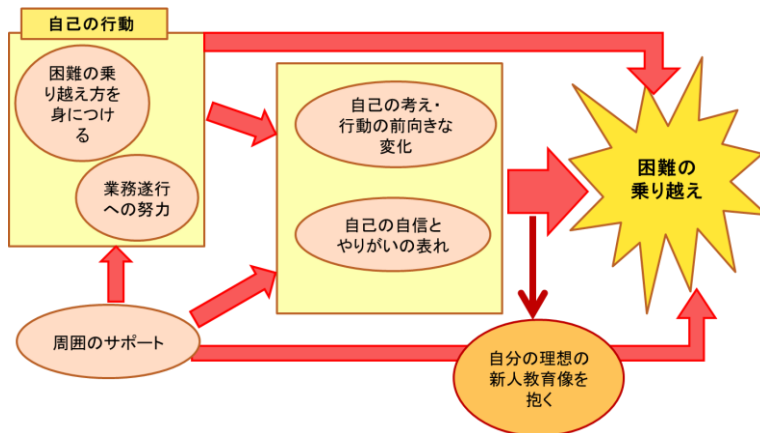


図4 困難の乗り越え方・乗り越えに影響した要因

## 結 論

1. 新卒看護師は時期によって異なる様々な困難を抱いていた。
2. 困難を乗り越えるためには、新卒看護師自身の努力だけでなく、周囲のサポートを得ることが重要であった。
3. 困難を乗り越えるためには、ER 希望動機は特別な存在であった。
4. 新卒看護師は困難に直面しても、それを受け止め、その都度対応してくことで困難の乗り越え方を身につけて行った。

## 本研究の限界と課題

本研究の研究対象者は4名で、4人中3人が男性というように性別にも偏りがあり、本研究の結果を一般化するには限界があった。今後の研究では研究参加者の人数を増やすと共に、男性と女性の比率が同等になるようにする必要がある。また、本研究の研究参加者は全員看護基礎教育を4年制大学で受けていたことから、今後は専門学校出身者なども対象者として加え、教育環境の違いによる新卒看護師の感じる困難とその乗り越えに関し、比較・検討する必要がある。

## 文 献

- 1) 中山由美；救命救急センターに就職した新卒看護師が感じているストレス要因、藍野学院紀要、第20巻、42-51、2006
- 2) 唐澤由美子 他；就職後1ヶ月と3ヶ月に新人看護者が感じる職務上の困難と欲しい支援、長野県看護大学紀要、10巻、79-87、2008
- 3) 神島滋子 他；救急部門に勤務する卒後3年目までの看護師の職場適応構造—インタビューの分析より—、日本救急看護学会雑誌、第11巻1号、1-11、2009
- 4) 宮沢玲子、茂呂悦子；クリティカルケア領域で働く新卒看護師へのサポート—どのよう
- 5) 瀬川雅紀子 他；新卒看護師の職業継続意識に影響を与えた体験、日本看護管理学会誌、第13巻2号、41-49、2009
- 6) 矢野いづみ 他；新人看護師の職場適応ができた要因—入職後の体験を振り返ったインタビューの中から—、中国四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究学会誌、6巻、135-138、2010
- 7) 西田朋子；就職3ヶ月目の看護師が体験する困難と必要とする支援、日本赤十字看護大学紀要第20号、21-31、2006
- 8) 三輪聖恵 他；新卒看護師の職場適応に関連する要因に関する研究、日本保健科学学会誌、第12巻4号、211-220、2010



## The study of difficulty and get over of the nurse new face of the emergency room

Risa KITAJIMA, Tomomi OHKI

Showa University, school of Nursing and Rehabilitation Science

### Abstract

In this study, it was intended that I clarified difficulty and get over aspect of the nurse new face of the ER. For nurses of the second year when the interview investigation, work in nurse new face in the ER. 486 primary cord, 107 second cord, 41 subcategory, 14 category, 3 situation were extracted. The nurse new face has [expectation and uneasiness to ER work], [The factor of the difficulty to feel to be the first year] “difficulty to be used to workplace environment” “inexperienced a technique and knowledge” “a difference of the learning in the nursing basic education course” “thought to want to resign as a nurse” “an ideal and a real gap”, [Get over it difficulty] “the difficulty get over it, and wear one” “an effort to duties accomplishment” “support” “hold one's ideal new face education image” “the forward change of a thought and the action of the self” “an outcome of confidence and the worth doing of the self” was constructed. The nurse new face had different various difficulty by time. As well as an effort of the nurse new face, existence of neighboring support became clear to get over it. The motive in hope of ER was important to get over difficulty. The nurse new face takes it in the face of the difficulty, and they understand a method over difficulty by experience.

Key word: the nurse new face, emergency room, difficulty ,get over